

ヒルフェ通信(10月号) ❁ そっと寄り添いやさしくサポート ❁

「公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ」は東京都行政書士会が社会貢献の一環として設立した法人です。



◆地区連絡協議会が開催されました

9月13日(金) 本会2階201・202会議室におきまして、地区連絡協議会が開催されました。年に一度、33地区の地区リーダーが招集されて行われています。

まずは山崎理事長が開会のご挨拶をされました。ヒルフェの活動の根幹となる地区活動の重要性についてはもちろん、日行連やコスモス成年後見サポートセンターの情報などにも触れられ、ヒルフェとしてだけではなく、行政書士としてより一層支部との連携が大切になってくるといったお話がありました。

第1部では、ヒルフェの対外的な活動、地区活動の趣旨、地区活動費、新入会員の状況、パンフレット等の販促物や名刺の申請について各担当理事より説明が行われました。そして、1部の最後に地区活動の活性化を図るため、現在、創設を検討している助成金制度のガイドラインについての説明がありましたが、各地区とも関心が高く、多くの質問や要望があり、今後はそれらの意見も取り入れながらガイドラインの策定を進めていくとの報告がありました。

第2部では、高橋地区・ブロック統括理事より、「一人一件の成年後見案件受任を！」を目指し、どう取り組んでいくか、地区・ブロック活動支援に向けて、成年後見制度利用促進法からの視点として、「中核機関」と家裁との連携・協働の動きについてのお話や、社協との連携に苦慮している地区の取り組み、地区活動に役立つ情報の収集や提供、地区活動のサポート状況などについて報告がありました。

次に、代表地区として、今年は港地区、練馬地区、武鷹地区が、それぞれ活動状況の発表を行いました。3地区とも支部との関係、社協との関係、ヒルフェ会員の活動状況等が違う中で、それぞれが工夫しながら活動をされている状況をお話しされました。

その後、参加地区すべての活動報告、情報交換が行われました。今回は、今まで会員のいなかった地区に入られた方や、地区リーダーの交代により初めて会議に参加された方もおられましたが、どのように地区活動を進めていけばよいかわからなかったが大変参考になったという声も聞かれました。また、社協との連携に苦慮している地区も少なくはありませんが、首長申し立てを受任したり、社協から相談やセミナーの依頼を受けたりといった報告も多くなってきたように思います。そういった地区の活動の波紋が広がって、苦慮しながらも地道な活動を続けている地区の努力と相まって、少しずつではあっても大きく波及していくような、希望を感じられた会議でした。

※詳細報告、資料等はヒルフェホームページの会員ページに掲載しておりますので、会員の方は併せてご覧ください。



◆東京都行政書士会主催 第6回遺言・相続手続・成年後見 相談会 相談員派遣

9月6日(金)午後1時から午後4時の間、新宿駅西口地下イベント広場におきまして、東京都行政書士会主催「公証人と行政書士による 第6回遺言・相続手続・成年後見 相談会」が開催されました。市民相談センターより相談員の派遣要請を受け、ヒルフェからは黒澤理事が相談員として参加いたしました。

新宿駅西口地下イベント広場の前を通行する多くの方に関心を持っていただき、10数か所ある相談ブースがほぼ満席の状態が続きました。相談者の中には成年後見に関する相談をされる方もおられました。

市民相談センターの集計によると相談件数は昨年を上回り合計78件もありました。また、成年後見に関する相談も多く成年後見制度やヒルフェを知っていただく貴重な機会となりました。

